

気仙沼市病院事業審議会
令和3年度 第1回会議

会 議 録

令和3年7月26日開催

気仙沼市病院事業局

【出席者】（敬称略）

《委員（9人）》

藤 森 研 司（東北大学大学院医学系研究科 医療管理学分野 教授）
森 田 潔（一般社団法人気仙沼市医師会 会長）
木 村 伸 之（気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会 会長）
大 森 美 和（にじのわ助産院 代表）
吹 谷 大 祐（宮城県保健福祉部医療政策課 医療政策専門監）
野 上 慶 彦（宮城県気仙沼保健福祉事務所保健医療監・宮城県気仙沼保健所所長）
赤 川 郁 夫（気仙沼市副市長）
横 田 憲 一（気仙沼市病院事業管理者兼気仙沼市立病院院長）
齊 藤 稔 哲（気仙沼市病院事業局気仙沼市立本吉病院院長）

《事務局》

大 友 浩 志（気仙沼市立病院 副院長）
星 達 也（気仙沼市立病院 副院長）
水 戸 恵美子（気仙沼市立病院 看護部長）
佐 藤 昭 一（気仙沼市立病院 総合患者支援センター副所長兼附属看護専門学校事務長）
畠 山 久美子（気仙沼市立本吉病院 看護師長）
菅 原 正 浩（経営管理部長）
千 葉 淳（経営管理部 総務課長）
吉 田 千 明（経営管理部 総務課長補佐兼管財係長）
畠 山 由 美（経営管理部 総務課主幹兼総務係長）
小野寺 弘 明（経営管理部 医事課長）
三 浦 裕 子（経営管理部 医事課主幹兼医事係長）
白 幡 裕 子（経営管理部 医事課主幹兼収納係長）
畠 山 正 浩（経営管理部 経営企画課長）
佐 藤 浩 司（経営管理部 経営企画課参与）
熊 谷 岳 豊（経営管理部 経営企画課主幹兼経営企画係長）
菊 地 千 秋（経営管理部 経営企画課主幹兼経理係長）
鈴 木 勝（経営管理部 経営企画課主査）
佐 藤 研（経営管理部 管理課長）
熊 谷 徹（経営管理部 管理課長補佐兼主任）
上 村 明 廣（有限責任監査法人トーマツ）
竹 中 秀 郎（有限責任監査法人トーマツ）
上 原 智 貴（有限責任監査法人トーマツ）

《傍聴者1人》

1 開会

- 司会（熊谷岳豊）** 委員総数9人のうち全員の出席があり、気仙沼市病院事業審議会条例第7条第2項の規定による定足数に達していることから、令和3年度第1回気仙沼市病院事業審議会を開会する。

2 委員紹介

- 司会（熊谷岳豊）** 人事異動等により委員が変更になっている。名簿順にご紹介するので、それぞれ簡単に自己紹介をお願いします。
- 大森美和委員** 今年度から委員を務めさせていただくことになった。助産院では主に乳房ケアと保健指導を行っている。どうぞよろしくをお願いします。
- 吹谷大祐委員** 4月から現職に着任しているが、6月までコロナ病床の担当をしており、今の医療政策専門監としての本来業務は事実上7月からということになる。微力ではあるが、気仙沼市立病院、本吉病院の発展に寄与したいと思っているので、どうぞよろしくをお願いします。
- 野上慶彦委員** 4月から着任しており、気仙沼での勤務は3年目になる。コロナで大変な状況だが、前任の鈴木所長の後を継いで、しっかり対応していきたい。皆様にはいつも大変お世話になっている。今日はどうぞよろしくをお願いします。

3 挨拶

- 藤森研司会長** 本審議会は、令和3年度第1回目であり、新改革プランの令和2年度取組に係る点検・評価ということで、コロナによって大きな影響を受けて、厳しめの評価にならざるを得ないかと思うが、その中でもいろいろと頑張りが見えるので、本日はそれらの議論をお願いします。また、4月から全部適用になったということで期待している。全部適用になったことでいろんなことが出来得ようになったのかと思っているので、スピード感を持って対応していただければと思う。本日はよろしくをお願いします。

4 審議

- 司会（熊谷岳豊）** 条例第7条第1項の規定により、藤森会長に議長をお願いします。
- 藤森研司会長** それでは、次第に従い議事を進めてまいります。審議事項の新改革プランの令和2年度の取組に係る点検及び評価について、事務局からの説明をお願いします。

審議事項について 事務局（熊谷岳豊）が、資料1「審議事項の説明及び審議方法について」、資料2「気仙沼市立病院新改革プランの令和2年度の取組に係る点検及び評価報告

書（案）」，事務局（畠山正浩）が，資料3「気仙沼市立病院新改革プランの令和2年度の取組に係る点検及び評価報告書 資料編」により説明。

○藤森研司会長 それでは皆様から意見を賜りたいが，まずは市立病院に関して，資料2の3から7ページ，資料3の5から17ページの部分についてご意見を伺いたい。

○森田潔副会長 市立病院の目標については，数字目標に対する評価になっているが，現在は非常時で，平時に作成された数値目標とは当然ながら異なるわけで，市立病院にしても本吉病院にしても，コロナ対策には十分貢献されている。例えば病床管理の適正は，感染予防のために，政策上のこともあって入院患者数が減少しているということなので，このまま患者数が減少したので評価Cとなると，大きく貢献されているのにどうなのかなと思う。例えば（C）という形にしたほうが良いのではないかなというのが正直な感想で，自虐的な評価になっているように思う。

○事務局（菅原正浩） 当該評価項目については，森田副会長がおっしゃる通り，数年前に作成されたものである。例えば外来患者は1,000人以上を診ることが目標になっているが，現在，市立病院では役割分担を明確化するために選定療養費を導入して外来患者を適正化するという取組をしており，計画を作成した段階と現在の実態が乖離しているものもある。ただし，評価は数字でしかできないものもあるので，只今いただいた意見を参考に，評価に当たってのまとめ部分に反映していきたいと考えている。

○赤川郁夫委員 森田副会長の意見に関連する部分だが，病床の適正化について，資料3では新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えや病床確保により云々と記載があるが，資料2の評価報告書には，新型コロナウイルス感染症の影響によりとしか記載がない。資料3に記載があるように，また森田副会長の意見の通り，資料2にもっとコロナの影響に関する記述を記載した方が分かりやすいのではないかなと思う。特に収益の向上策は，コアな部分なので，表現に少し気を付けたほうが良い。

○事務局（菅原正浩） 資料2と資料3の内容・書きぶりが異なることは良くないので修正したい。その中で先ほど，森田副会長からいただいた意見も反映させていきたいと思う。

○木村伸之委員 赤川委員がお話しになった部分について，資料2の18ページに外来患者数について，833.5人まで縮小することが出来ましたと記載があるが，コロナの影響によって縮小したのか，それとも能動的に縮小したのかがわかりづらい。落とすところがどこなのか本日お聞きできればと思っていたが，整合性は後でお考えいただければと思う。

○事務局（菅原正浩） 目標数字の設定により，そうなっているが，患者が減少した，一方で患者を適正化できたという，非常に分かりづらい表現なので工夫したいと思う。

○**森田潔副会長** 資料3の6ページに記載されている診療材料費のコスト削減を達成したという部分について、基本的には病院で使用される診療材料は保険で賄われるので、少なくともマイナスになることはない。収益を上げるという意味では、マルメでやっている場合は、ジェネリックに変更することなどでコスト削減して利益を上げることもあるだろうし、保険の中では1日3本しか請求できないが、患者の状態によって、保険請求できる分以上に多く使用したものについては病院側がコストを被ることもあると思う。マルメによる利益の向上なのか、病院側がコストを被るものが減少したのか、こういった形でのコスト削減なのかを教えてください。

○**事務局（小野寺弘明）** ただ今のご質問について、コスト請求する際に、例えば月1回しか請求できないものやルールのあるものについては、一通り医師に説明をするが、それを超えた分を削減してほしい、控えるようにといった依頼はしていない。超えた分も患者にとって必要なものだと理解しているので、そういった意味でのコスト削減ではない。

○**事務局（畠山正浩）** 診療材料のコスト削減については、保険請求できないもの、例えば手袋など同等品を検討して、安価なものに切り替えるなどによってコストを削減している。

○**事務局（菅原正浩）** コスト削減にはベンチマークを活用している。以前はそれぞれの業者と交渉して安いものを購入する考えだったが、地域柄、診療材料を提供する会社が少ないことから競争力が働かないため、ベンチマークを活用して全国の平均金額で購入することに取組んでいる。それに伴い、A製品をB製品に切り替えることがあるが、実際に現場で使用するスタッフに使ってもらい問題がなければ切り替える取組を行っている。

○**森田潔副会長** 気仙沼市立病院の入院は出来高請求か。もしくはマルメ請求か。どちらなのか教えてください。

○**事務局（小野寺弘明）** 当院は出来高での請求となっている。

○**藤森研司会長** 続いて、本吉病院に関して資料2の8から11ページ、資料3の19から26ページであるが、ご意見を頂きたい。

○**森田潔副会長** 本吉病院も市立病院同様に大変よくやっている。先ほど市立病院の意見の中で申し上げた通り、コロナ対応を前面に押し出しても良いのではないと思う。中々表に出てこないことだが、それに対してしっかりした評価がされているのかどうか。実施していることがちゃんと病院の収入として、補助金でも良いが、反映されているか、資料の中でその辺りがあるのかどうか分からなかったので教えていただきたい。

- 事務局（佐藤研） 医師が診察した分は保険請求、処方料を算定している。補助金はインフルエンザの対応ということで、外来診療体制加算をいただいている。
- 事務局（菅原正浩） 個人的な印象だが、コロナ対応における外来に関しての補助金は少ない気はしている。入院病床の確保に関する補助金は市立病院において相応分いただいているが、経営管理部としては外来で診ている分の評価、補助金はもう少しあってもよいのではないかと思う。
- 森田潔副会長 私も同感である。調べてみると、県によってだいぶ異なる。市立病院は入院で、本吉病院の外来で、しっかりと対応していただいて気仙沼地域を守っている。これがないと気仙沼地域の安全は守れていない。可能なものは、補助金で算定いただければと思う。これが経営にしっかり収益として貢献されれば、更に診療にやる気が出ると思うので、機会があれば検討していただければと思う。
- 藤森研司会長 続いて、資料2の12から19ページ以降の地域医療構想を踏まえた役割の明確化、再編ネットワーク、経営形態の見直しの部分についてご意見いただきたい。
- 赤川郁夫委員 資料2の14ページに一般会計の考え方をまとめているが、一般会計からの基準外繰入は続いているので、表現・書き方を考えていただきたい。これだと基準外繰入がなくなったように捉えられてしまう。当然、病院としても、基準外繰入の縮減は取組んでいるところではあるが、さらに進めていくということを書いていただけると良いと思う。また、本吉病院については、資料の中で他会計という記載になっているが、他会計ではなく一般会計と記載していただきたい。実際、事務局の説明では、一般会計と説明していた。その他にもいくつか文言を加え説明しているところがあったが、その方がわかりやすかった。説明が必要な文言はほかにもあると思うので適宜追加いただきたい。今後、修正をしていただけると思うが、適正な方に焦点が当たるように文章等見直していただきたい。
- 齊藤稔哲委員 資料2の16ページに記載の研修医の受入れの項目について、コロナによって難しかった部分もあるが、実は令和2年度は、令和元年度までは月に2名ずつ受け入れていた研修医を月1名にした。というのは、東北大学から、より学生を受け入れてほしいという要請があったためである。そうすると、学生1名、研修医1名で月2名が妥当だろうということで、割り振りを変えさせていただいている。記載は修正いただけるとありがたい。今後は目標20名となっているが、月1名の12名が研修医受入れの目標となる。
- 事務局（菅原正浩） ただ今齊藤委員からあったお話は重要であり、資料から抜けているので加筆する。なお、新改革プランは令和2年度で終了である。今年度以降は新たな改革プランを作成することになるが、国からのガイドラインは示されていない。現状にあった

プランを作成する上で、新しい目標を作っていきたいと思っている。

- 木村伸之委員** 資料2の13ページに記載のある気仙沼市地域包括ケア推進協議会は、会長が森田委員、副会長が私で開催している。協議会を開催できなかったことは申し訳ない部分だが、協議会が無くてもますます連携は増しているので、評価をAとしていただきたいと思うがいかがか。
- 事務局（菅原正浩）** 当院としても、地域包括ケアの一翼を担うということで、横田事業管理者を中心に頑張っているところである。ただいまの話を受けて、皆様が評価Aで良いということであれば評価をAにしたいと思うがいかがか。
- 審議員全体** 評価をAとする。
- 森田潔副会長** 資料3の28ページについて、北域という表現は正しいのか。
- 事務局（菅原正浩）** おそらく、北域ではなく地域の間違いである。大変申し訳ない。
- 森田潔副会長** 地域医療構想について私も参加しているが、感染症対策が考慮されていない状態である。その中で市立病院、本吉病院はよくやられているのは先ほど話した通りであるが、今後は感染症対策が盛り込まれないといけない。それによって新改革プランのベースが変わってくると思う。そういったベースがない中でもよくやっていることを再度ご認識いただければと思う。
- 横田憲一委員** 追加報告になるが、住民の理解のための取組で、住民懇談会などは出来なかったが、広報委員会を立ち上げた。現在、ホームページを新しくすることに取り組んでいる。その中で、回復期リハビリテーション病棟の機能や効果などのコンテンツや、以前に医師や看護師等が病院入口にコーナーを設けて、レクチャーのようなことをやっていた市民医学講座をホームページで見えていただけのようにしたいと考えている。8月から新しくなる予定ということで報告をしておきたい。
- 藤森研司会長** その他いかがか。全体を通して、総括的な意見、質問などはあるか。
- 藤森研司会長** 資料2の1ページに本日の審議会を受けて答申書を作成するという事になっているが、事務局と私で調整させていただき、作成させていただいてもよいか。また、今回の審議資料を十分に加筆・修正を行ったうえで、作成したのちに皆様にご確認いただき、書面にて市長に答申したいと思うがいかがか。
- 審議員全員** 良いと思う。

5 その他

○**森田潔副会長** その他ということで二つほどお知らせ、ご報告したい。一つ目は、現在、訪問リハビリステーションは復興特区の枠組で再々延長として行われているが、来年で特区の延長が終了する。現在の訪問リハビリステーションは気仙沼訪問看護ステーションに吸収されるという形になり、名称が変わるので、訪問リハビリの指示書については、訪問看護ステーションの方に指示書を出していただければと思う。7月から10月にかけて移行を進めたい。よろしく願います。

二つ目は、医師会の方に日本マクドナルド様からコロナ対応で頑張っている医療従事者に対する好きな商品の引換券を1,000枚ほど寄贈いただいている。医師の数で割って、市立病院や本吉病院にもお渡しする。明日以降の新聞にも載ると思うが、日本マクドナルド様とイオン様から寄贈いただいたので、この場を借りてご報告させていただく。

○**大森美和委員** この1年、コロナ禍で、誰もが先の見えない中、市立病院・本吉病院には、最前線で市民の安全を守るために頑張っていたと思う。その中でもコスト削減などの対応をされていることが、資料を拝見して分かったので勉強になったし、素晴らしいなとも思った。また、私は助産師なので産科関係にも着目していたが、今回、産科外来の助産師を増やされて、育児相談も始めるということで、私も気仙沼地域で色々と取り組んでいるが、病院とさらに連携していきたいと感じた。昨年度から産後ケア事業が気仙沼市で始まり、訪問事業を健康増進課から委託を受けている。病院にいるときの情報をいただき、昨年度も何人か訪問させていただいたが、産後うつなど増えているので、これからも病院にいる間の情報連携をさせていただければと思う。

○**野上慶彦委員** 石巻・登米の保健所所長も兼ねており、他の圏域のこのような会議にも参加させていただいているが、他の圏域の中核病院もコロナの影響で救急患者が激減していると聞いている。患者が減少すると、病院の収益が減るので大変切り詰めておられるなど改めて読み取れたところではある。そのような中で、私どもとしてはコロナの患者、入院・外来診療をお願いする立場で心苦しいところではあるが、まだなかなかコロナは終わらない状況であり、引き続き、コロナの外来・入院診療お願いしたいと思っている。大変心苦しいが、よろしく願います。

○**吹谷大祐委員** 各委員から話があったところであるが、コロナの影響で県内の病院は軒並み患者数が減っており、かなり厳しい状況が続いている。その中で市立病院・本吉病院共にしっかり経営されていることは素晴らしいと思う。県としても、微力ながら病床関係の補助金等々で補助していきたいと思っている。4月から全部適用が始まり、これまでは準備ということでの評価Aだと思うが、実際は適用後の今年度以降の取組が重要だと思うので、全部適用のメリット・仕組みを生かしていただければと思う。

○**赤川郁夫委員** 各委員の皆様には、ご議論いただき感謝する。市としては、地域の医療を守っていくということが重要な責務なので、市立病院また地域の市内の医療施設に関連する職場、スタッフと一緒に進めて行きたいと思っている。これからも様々な面でご意見をいただきながら、市全体として一つの方向に向かっていく大きな力・うねりにしていきたいと思っているので、今後も皆様からのいろいろな提言をお願いする。

○**横田憲一委員** 地域医療構想の進め方について、病院幹部で話し合いを進めている。特に高齢化のトップランナーのような当地域では、回復期ニーズ、退院支援や病後のポストアキュート機能等が必要な患者が急性期病棟に相当数いることが分かっている。国も回復期医療に力を入れてほしい中で、リハビリテーション中心の回復期リハビリテーション病棟は既にあるが、回復期リハビリテーション病棟以外で地域包括ケア病棟を立ち上げていこうとも話をしている。回復期医療に対する質向上、また収益的にもメリットがあると思うので、今年度、来年度初旬を目標に、もちろんコロナが収束しない限りは中々進められないが目指しているところを事業管理者としてご報告させていただく。

○**森田潔副会長** 横田委員からの話について、そういった方向に舵を切っていただけることはありがたいと思う。ただ、そのためには内部の変革、やり慣れていないことをやるということは大変なので、横田院長や両副院長の力量で何とかやりきっていただきたいと思う。本来であれば回復期の受け皿は民間の医療機関が担うことが出来れば良いが、残念ながら病院はダウンサイジングや有床診療所も減少している。新たな開業も残念ながら多くはない。高齢になりリタイアする医師もいる。看護学校の問題とも絡むが、10年先20年先の気仙沼を見据えて、市立病院がそのように舵を切っていただく中で、医師会としても受け皿が出来れば減らさない、出来れば広げていくような格好で進められると良いと思っている。その中で、地域医療構想も進められたらと思っている。また、木村委員もいらっしゃるので介護との連携も進めて行ければ、少子高齢化の中で何とかみんなで乗り切っていくことが出来ればと思っているので、今後ともよろしく願います。

○**司会（熊谷岳豊）** 今後の予定として、次回の審議会の議題は新改革プランの策定についてと考えているが、国からのガイドライン公表時期が未定なので、公表に合わせて日程を調整したい。

6 閉会

○**藤森研司会長** 以上で本日の審議を終了する。

閉会 午後7時30分